

原子力発電所特別委員会

打合会議録

日時 昭和45年1月27日午後1時30分

場所 第2委員会室

出席者 原子力発電所特別委員会

委員長 柴野 寅平君

環境整備対策分科会主査 関 市太郎君

環境整備対策分科会副主査 田村 光仲君

監視体制整備対策分科会主査 関矢 尚三君

監視体制整備対策分科会副主査 黒崎 秀夫君

産業振興対策分科会主査 吉田 勝治君

産業振興対策分科会副主査 阿部 公一君

委員 内藤 哲夫君

副委員長 飯塚 正君

協議項目 (1) 宮川・大湊地区の状況について

(2) 視察のことについて

1 事務局 主査 小越哲雄君

1 市側の出席者 助役 今井 哲夫君

市長公室長 長野 茂君

土木建設課長 根立 政信君

土木建設補佐 竹田 勇君

1 開会 午後1時32分

1 経過概要

(1) 宮川・大湊地区の状況について

柴野委員長 先般、両地区に行って懇談してきた状況について意見を交わしていただきたい。あるいは、その後の動きについて。

関 主 査 その後、動きはない。巷間、やはり安全性の問題について一まつの不安がある。

それから、高浜地域にどういうプラスがあるのかわからない。具体的なものを示してほしい。判断の資料にしたいという声がある。

関 矢 主 査 監視体制が大事、今後においても、また出向いてもよい。

内 藤 委 員 一まつの不安、道路う回の不便、これらに対する方策が大事。

関 矢 主 査 地域に事業体や諸施設を持ってきてもらいたいということも言って

いた。

田村副主査 関連して、荒浜地区の空気は非常によくなった。

柴野委員長 ・安全性は確保されるとは言いながら、やはり不安が残るとい
と

- ・レイアウトができる前にも話し合いが必要であるということ
- ・監視体制については県と連絡をとる必要があるということ
- ・道路つけかえの法線を示せということ
- ・宿舎等の施設をつくってほしいということ

田村副主査 敦賀、美浜では漁獲がふえたと言っている。

柴野委員長 大湊は、つけかえ道路や危険区域がハッキリ出ないうちは、要望も
出してみようがないということだ。

関主査 県道を企業の都合で簡単に廃道できるのかという疑問が出ている。

内藤委員 監視体制に地元がどういう形で参加できるかという問題がある。東
海村では毎年、測定技術者養成講習会を用いている。

柴野委員長 先進地の視察を考えているが、東電や市当局と話し合う前がいいか、
あとがいいか、視察してきてから話し合いをするほうがいいのではな
いか。(全員同意)

内藤さんも視察に参加するかどうかは議長と相談する。

(2) 視察について

柴野委員長 2月1日から4日までに敦賀・美浜を視察して来ることにしたい。

(3) その他(報告)

今井助役 荒浜の研究委員会は、心配ないという結論を出した。刈羽では地権
者の組織ができた。問題のう回道路であるが、東電のほうから試案が
来た。公室長から説明する。

長野室長 東電は将来の国道昇格を予想して国道規格にはまるものを考えた
ということで広配37°以内、現道より2.2キロぐらい回すること
になる。この1次視察については、もっと短くならないかと話をして、
その次に手直しをした案を持ってきた。それによると、現道より1.
6キロほど回することになる。その間の距離は現査3,860米、
2次案5,400米で広配は57°以内。250米はトンネルになる。
大湊の宮川よりの地点からカーブするので、部落への取体道路が必要
になるが、これは地元の望む所につける。

(このあと、将来の開発のビジョン等について雑談的な話があった)

1 閉会 午後4時3分